

## 平成18年度事業報告書

### (概要)

大変厳しい経済情勢の中で、石原会長を始めとする各理事の努力により、昨年度から、「株式会社ライフ・サイエンス研究所」に新たに賛助会員としてご支援頂けるようになり、更に今年度からは、「アサヒ飲料株式会社」にも賛助会員になって頂いた上に、地方水域大会への協賛も頂くことが出来ました。

「アビームコンサルティング株式会社」からは、引き続き、全国大会、東日本地区大会に特別協賛企業としてご支援を頂くことが出来、更に、機関紙「ユースセーリング」広告についても、第一三株式会社やエスピー食品株式会社、大塚製薬株式会社と共にご支援を頂いております。

本年度の競技会事業では、下記の通り、東西日本地区大会、全国大会の他に、従来からそれぞれ地元が中心となって開催していた北海道大会と東北大会の地方水域大会を地域普及大会として位置付けて、「アサヒ飲料株式会社」の協賛を頂いて、「2006三ツ矢サイダーカップ」として地元との共催の形として大会を開催、又ジュニアヨット国際親善レガッタも「三起商行株式会社」の協賛を頂き、「ミキハウスカップ」として東京都ヨット連盟との共催の形で支援協力して開催しました。

- 1) 第26回日本少年少女オープンヨット大会(東日本地区大会)  
平成18年5月3日(水)～5日(金)長野県信濃町野尻湖
- 2) 第26回日本少年少女オープンヨット大会(西日本地区大会)  
平成18年5月3日(水)～5日(金)鳥取県米子市錦海
- 3) 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2006  
平成18年8月4日(金)～8月6日(日)石川県七尾市和倉町
- 4) 2006三ツ矢サイダーカップ北海道大会  
(第25回北海道ジュニアヨット(小樽)大会)  
平成18年7月28日(金)～30日(日)北海道小樽市祝津
- 5) 2006三ツ矢サイダーカップ東北大会  
(第22回東北ジュニアヨット大会)  
平成18年8月12日(土)～14日(月)宮城県名取市関上
- 6) 第16回ジュニアヨット国際親善レガッタ(ミキハウスカップ)  
平成18年9月3日(日)東京都若洲ヨット訓練所

第26回日本少年少女オープンヨット大会(東日本、西日本地区大会)は、それぞれ長野県や鳥取県の県連や地元ジュニアヨットクラブの皆さんの事前準備の下に、当連盟役員や参加クラブの指導者、保護者の皆さんにも運営に参加して頂き、費用を極力節減しながらも、充実した大会を行うことが出来ました。

全国大会は、石川県七尾市和倉町の七尾西湾で、例年の3ヶ国、韓国、ニュージーランド、ロシアを招聘して、「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2006」として開催しました。

参加選手も、全国各地からの選手99名に外国チームの15名を加えた総勢114名となり、保護者、指導者、運営役員を含めると332名の大会となりました。クラブ対抗も、参加選手の多い江ノ島ジュニアヨットクラブ、K.M.C.横浜ジュニアヨットクラブ、山形ジュニアヨットクラブ・温海中学校ヨット部が上位3チームとなり、接戦の好勝負となりました。国際交流も含め、ジュニアセーラーの日頃の成果や指導者の情報交換の場として有意義な大会になったと考えています。

「2006三ツ矢サイダーカップ」は、今年度から「アサヒ飲料株式会社」の協賛を頂き、従来から継続開催されていた、「北海道ジュニアヨット大会」と「東北ジュニアヨット大会」に当連盟も共催の形で参画し、一層充実した大会にすることが出来ました。

又、従来から支援していました「ミキハウスカップ ジュニアヨット国際親善レガッタ」にも共催の形で参画して開催しました。

「ユースセーリング」の発行につきましては、11月に第73号、年度末の3月に第74号を発行して、計画通り年2回の発行が出来る体制になりました。

#### (部門別詳細)

#### 1. 総務関係部門

##### (1) 会員開発と加盟促進 (総務委員会／普及渉外委員会／財務委員会)

(イ) 新たに1クラブが加盟、1クラブが退会となり、1クラブが休会。現在加盟クラブの代表者である正会員は70名となっています。(休会16クラブ)(平成19年3月31日現在)

(加盟クラブ) ななお B & G 海洋クラブ

(退会クラブ) 葉山マリーナブルーアンカージュニア

(休会クラブ) 札幌ジュニアヨットクラブ

(ロ) クラブの代表者以外の正会員は、理事13名、監事2名、その他3名の18名となり、上記加盟クラブ代表者の正会員と合わせて総計88名となっています。(平成19年3月31日現在)

(ハ) 賛助会員については、ここ数年は新規募集が極めて難しい状況でしたが、昨年度は、「株式会社ライフ・サイエンス研究所」に新たに賛助会員となって頂くことが出来、更に今年度、「アサヒ飲料株式会社」にも賛助会員になって頂く事が出来ました。

##### (2) 地方水域担当理事の活動 (総務委員会／普及渉外委員会)

地方水域担当理事(東：小松勇一理事、阪田守昭理事、西：内藤武夫理事、陶山哲夫理事)は、引き続き定例理事会、総会への出席や全国大会、東西日本地区大会等の運営の参画を中心として活動しています。

#### 2. 指導員養成部門 (指導育成委員会)

(1) 本年度は、新たな公認指導員、準指導員は無く、更新した公認指導員17名、準指導員2名にて、平成19年3月31日現在の公認指導員は167名、準指導員は24名が登録されています。

(2) 指導者研修会を平成19年2月24日の通常総会時に開催しました。

### 3. 普及と広報活動部門

#### (1) 普及・振興活動(普及渉外委員会)

アサヒ飲料株式会社より地域普及大会に協賛金のご支援を頂く事が出来たので、従来から地元が中心となって開催していた、北海道ジュニアヨット大会と東北ジュニアヨット大会に補助金と運営資機材を提供して、普及事業として、共催の形で開催しました。

#### (2) 各都道府県、関係市町村への広報、陳情活動(広報委員会／普及渉外委員会)

本年度の「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2006」については石川県、石川県教育委員会、七尾市等に対し、当連盟の活動への理解をお願いし、石川県セーリング連盟のご支援も頂き、七尾市和倉町沖合七尾西湾において開催することが出来ました。

#### (3) B & G財団との協調活動(普及渉外委員会)

B & G財団に対し、その傘下海洋クラブの東西日本地区大会、全国大会参加の呼びかけをして頂くように継続的に働きかけながら、協力関係の強化に努めました。

#### (4) 機関誌等の発行(広報委員会)

昨年11月にユースセーリング73号を、本年3月に74号を発行しました。連盟ホームページのリニューアルをしましたが、まだ不十分ではありますが、連盟からの情報提供(大会の案内・実施要項・報告書・成績表、連盟の事業計画・報告、収支予算書・収支計算書その他)などを掲載出来るようになりました。

#### (5) 競技会の開催(競技委員会)

- (イ) 第26回日本少年少女オープンヨット大会(東日本地区大会)を、5月3～5日に長野県野尻湖を会場に、文部科学大臣賞と国土交通大臣賞を頂き、長野県、(財)日本セーリング連盟、長野県セーリング連盟、野尻湖ジュニアヨットクラブその他のご後援、ご協力を頂き、長野県ジュニアセーリング連盟との共同主催で開催しました。

参加クラブ 23チーム、参加選手 112名

- (ロ) 第26回日本少年少女オープンヨット大会(西日本地区大会)を、5月3～5日に鳥取県米子市錦海において、文部科学大臣賞と国土交通大臣賞を頂き、鳥取県、米子市、(財)日本セーリング連盟等のご後援を頂き、鳥取県セーリング連盟、鳥取県ジュニアヨット協会、安来ジュニアヨットクラブとの共同主催で開催しました。

参加クラブ 16チーム、参加選手 80名

- (ハ) 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2006を8月4日～6日の期間、石川県七尾市和倉町沖合い七尾西湾を会場に、文部科学省、国土交通省、石川県、七尾市、(財)日本セーリング連盟等多くのご後援を頂き、文部科学大臣杯、国土交通大臣杯の他に、招待外国チーム優秀選手への特別協賛賞アビームカップを頂いて、石川県セーリング連盟、石川羽咋ジュニアセーリングクラブとの共同主催で開催しました。

参加クラブ 26チーム(韓国、ロシア、ニュージーランドの3チームを含む)  
参加選手 114名(内 外国選手 15名)

(ニ) 2006三ツ矢サイダーカップ

北海道大会（第25回北海道ジュニアヨット（小樽）大会）を7月28日～30日に、北海道小樽市祝津マリーナで、又東北大会（第22回東北ジュニアヨット大会）を8月12日～14日に、宮城県名取市閑上特設ヨットハーバーでそれぞれ北海道ジュニアヨット連盟、東北ジュニアヨット連盟との共催として開催しました。

北海道大会 5チーム 参加選手 33名に江ノ島ジュニアヨットクラブ1名  
東北大会 6チーム 参加選手 44名にニュージーランドチーム4名

(ホ) 第16回ジュニアヨット国際親善レガッタ（ミキハウスカップ）を、9月3日に東京都若洲ヨット訓練所で、東京都ヨット連盟との共催として開催しました。

参加クラブ 15チーム 参加選手 69名（内 中国1名、韓国1名）

(6) 諸外国との親善交流（普及渉外委員会）

(イ) 8月4日（金）～6日（日）、石川県七尾市和倉町七尾西湾で開催の国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2006に、韓国、ロシア、ニュージーランドの3ヶ国から合計15名の選手と5名の指導者を招待しました。

(ロ) 9月3日（日）、東京都若洲ヨット訓練所で開催の第16回ジュニアヨット国際親善レガッタに2名の外国選手の参加を得ました。

(ハ) 11月3日（金）～5日（日）、東京都若洲ヨット訓練所で行われた東京都・ソウル市ヨット交歓競技大会ジュニアヨットレースを後援しました。

(7) ジュニアヨットクラブの安全対策事業（指導育成委員会／普及渉外委員会）

平成19年2月24日開催の指導者研修会の機会に、安全関係も含め講習しました。

以上